

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
- 2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

1. 第36回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した(7月8日～19日、受講者31名)。
2. 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。
3. 令和元年度に実施した第35回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。



研修の様子

研究組織 ○佐野千絵、小安友利恵、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、吉田直人、間渕創(保存科学研究センター併任、文化財活用センター)

文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

令和元年度は以下の組織等において指導助言を行った(24件)。

1. 豊川市桜ヶ丘ミュージアムの特別展「島田卓二、黒田清輝とその周辺」への協力・助言
2. 内子町教育委員会自治・学習課での黒田清輝「重岡薫五郎肖像画」調査への協力・助言
3. 国立アイヌ民族博物館の積層式書架に係る仕様策定に関する助言(仕様策定委員)
4. 国立新美術館のアートライブラリー委託業者選定に関する助言(外部審査員)
5. 八尾市史編纂のための文化財調査に関する協力・助言
6. 岡山県立美術館の文化財調査に関する協力・助言
7. 九州国立博物館の文化財調査に関する協力・助言
8. 中之島香雪美術館の文化財調査に関する協力・助言
- 9~24以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

イギリス・イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、ドイツ・ライプツィヒ民族学博物館、ドイツ・ハイデルベルク民族学博物館、ドイツ・ハンブルク美術工芸博物館、韓国国立中央博物館、ドイツ・ケルン東洋美術館、逸翁美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、野崎家塩業歴史館、奈良国立博物館、サントリー美術館、甲賀市水口歴史民俗資料館、南蛮文化館、茨木市文化財資料館、大分県埋蔵文化財センター

無形文化遺産に関する助言(ム)

無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言等を実施した。

- ・文化庁への文化審議会無形文化遺産部会における助言
- ・文化庁への伝統文化親子教室事業に関する助言
- ・文化庁への無形民俗文化財に関する助言
- ・山梨県への文化財保護審議会における助言
- ・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会における助言
- ・千葉県への博物館資料審査委員会における助言
- ・東京都への民俗芸能大会実行委員会における助言
- ・島根県への古代文化センターにおける助言
- ・静岡市への文化財保護審議会における助言
- ・武蔵野市への文化財保護委員会における助言
- ・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議における助言
- ・箱根町への箱根湯立獅子舞調査に関する助言
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への「世界無形文化遺産フェスティバル」招聘団体選考に関する助言
- ・一般財団法人日本青年館への第68回全国民俗芸能大会企画に関する助言
- ・岐阜市・関市にて長良川鵜飼総合調査専門委員会における助言
- ・徳島県への阿波晩茶製造技術調査委員会における助言
- ・愛媛県西条市への石鎚黒茶製造技術調査委員会における助言
- ・文化庁への伝統工芸用具・原材料に関する調査事業専門家委員としての助言
- ・滋賀県草津市への青花紙保存継承懇話会専門家委員としての助言
- ・文化庁への工芸技術記録映画製作監修委員会における映像内容の助言
- ・文化ファッション研究機構への運営委員会における助言
- ・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会における審議
- ・文化庁への調査員(非常勤)としての文化財保存技術調査と報告・助言
- ・文化庁への伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における調査・助言

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

目 的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

成 果 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。

対応件数は41件あり、その中には派遣依頼等を受けて現地にて調査したもの、研究所にて分析試験等を実施したものなど、より詳細な調査が必要な事案もあった。

相談内容は、保存公開施設内における虫害やカビの発生に関すること、殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、歴史的木造建造物の虫害対策、空調の無い貴重書庫での虫菌害対策、古墳石室内の微生物被害対策など、より解決が困難な相談案件も多くあった。

台風19号に伴う水損文化財の生物被害とその初期対応や浸水した収蔵庫の微生物汚染状況の把握など緊急性を伴う相談案件にも対応した。

現場の対応と併せて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を8件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

目 的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成 果 1. 令和元年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、特別史跡キトラ古墳壁画、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡竹原古墳、史跡桜京古墳、史跡屋形古墳群、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡出島和蘭商館跡、史跡徳島藩主徳島家墓所、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財近代教科書関係資料、重要文化財通潤橋、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財碓氷第17隧道、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財法隆寺金堂外陣旧壁画（土壁）、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財上杉神社明冠服類・服飾類、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、白浜町指定梵音寺釈迦如来坐像、東京都「第5福竜丸」、公益財団法人船の科学館本館収蔵品展示室内保存環境、愛媛県指定史跡難波奥谷古墳、富山市大山恐竜足跡化石群、一般財団法人航空協会航空関連紙資料、日本民藝館所蔵厨子甕資料。



西日本豪雨で石室が一部流出した愛媛県指定史跡・難波奥谷古墳

研究組織 ○朽津信明、早川典子、倉島玲央、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）、中山俊介（特任研究員）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果 令和元年度は、蛍光X線分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先は以下の通りである。

1. 材質調査

- ・金工品(文化庁)
- ・陶磁器(文化庁)
- ・漆工品(徳川美術館)
- ・経典(平等院)
- ・建造物彩色(平等院)
- ・絵画(東大資料編纂所)
- ・絵画(絵金蔵)
- ・出土金工品(群馬県)
- ・絵画(根津美術館)
- ・山車の装飾部材(那須烏山市)
- ・絵画(宇和島伊達文化保存会)
- ・木彫像(平等院)
- ・漆工品(佐野美術館)
- ・一等水準点(国土地理院)
- ・絵画(三の丸尚蔵館)
- ・金箔・蒔絵粉(中尊寺)

2. 構造調査

- ・絵画(根津美術館)
- ・山車の装飾部材(那須烏山市)
- ・絵画(個人蔵)
- ・木彫像(文化庁)



山車に使われている装飾部材の構造調査

以上、調査・助言件数 20件

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

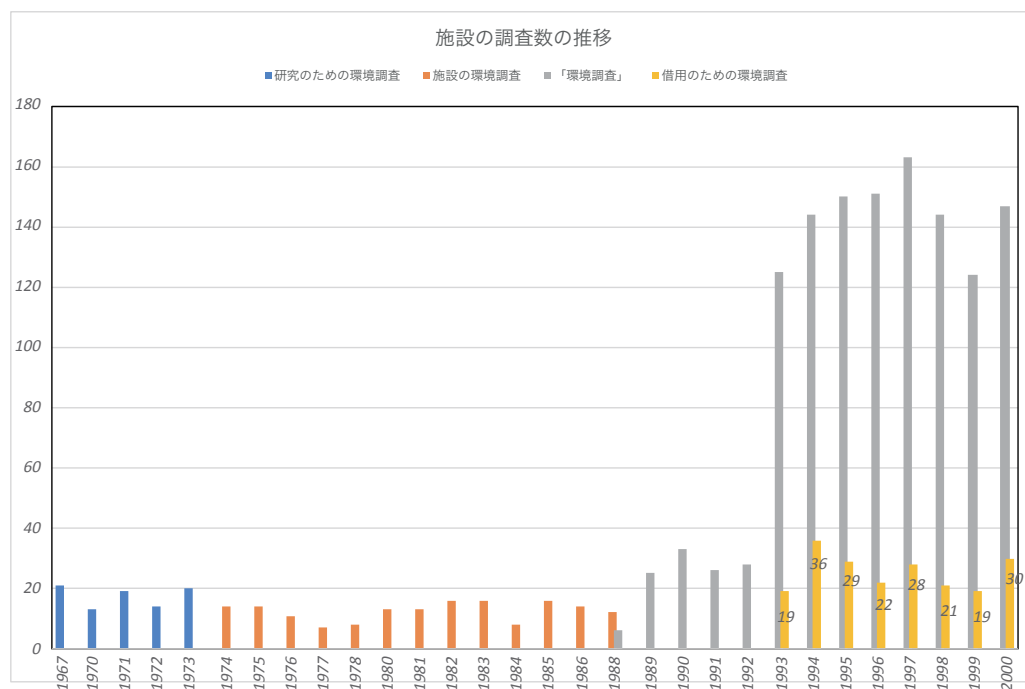
目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成果 1. 国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査に関わる相談窓口は、令和元年度から文化財活用センターに一本化した。
当所では、公立美術館・博物館、社寺等、23団体から、保存環境に関する相談を受け、対応した。

2. 相談内容は以下の通りであった。

企画展示室の温湿度制御(吹き抜けの影響)、空調改修、空調機の外調機騒音への対応、茶室の酸性物質への対応、美術館ではない場所での作品公開への対応、収蔵庫の温湿度制御の

相談（1～3Fをつなぐ未稼働の空調ダクト影響の把握）、一時保管施設のアルデヒド類発生への対応、フィルム類のガス燻蒸への対応（燻蒸後の保管方法含む）、収蔵庫改修、環境全般、カビへの対応、空気環境清浄化、汚染物質発生源調査、覆屋内の過乾燥、温湿度環境制御、収納箱（保存箱）、高湿度対策、窒素発生装置による低酸素濃度処置の加湿ほか



研究組織 ○佐野千絵、水谷悦子、相馬静乃、小安友里恵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育の推進

東京藝術大学で連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

・東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

成果 1. 令和元年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 18名（聴講3名）
 修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 安倍雅史・朽津信明 9名
 修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 早川泰弘・早川典子 10名
 保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 6名
 文化財保存学演習

講師：犬塚将英 「石造文化財表面の状態調査のための実測」

日時：6月4日（火）13～17時 18名



保存環境計画論の授業風景

2. 入学試験

令和2年度東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程）入学試験を実施し、2月11日に入学試験及び面接を実施して、合格者1名を決定した。

3. 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

研究組織 ○朽津信明、早川泰弘、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、貴田啓子（客員研究員・東京藝術大学教育研究助手）